

都市再生整備計画 事後評価シート
高田雁木通り地区

平成23年3月

新潟県上越市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	上越市		地区名	高田雁木通り地区			面積	637ha	
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	1539百万円	国費率	34.6%			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路事業(市道市之橋東本町線)、既存建造物活用事業(まちなか交流拠点施設整備事業)									
		提案事業	地域創造支援事業(雁木整備事業補助金、小姓人橋新設事業)、まちづくり活動推進事業(まちなか散策促進事業)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路事業(市道西城町三丁目裏寺線(浄興寺大門通り))、地域生活基盤施設(寺町駐車場整備事業)	市道西城町三丁目裏寺線(浄興寺大門通り):地元との協議が不十分であるため、削除 寺町駐車場整備事業:市事業で実施することになり、関連事業へ移行するため、目標及び指標は据え置く。				市道西城町三丁目裏寺線(浄興寺大門通り)の削除はソフト事業で補充し、寺町駐車場整備事業は関連事業へ移行しても整備は実施するため、目標及び指標は据え置く。				
		提案事業	まちづくり活動推進事業(まちづくりセミナー事業、まちづくりアドバイザー事業)	地元まちづくり団体の活動の活性化により事業内容が団体と重複するため、削除				市民団体自らが各種セミナー、アドバイザー事業を行っており、事業削除の影響はなし。				
	新たに追加した事業	基幹事業	公園事業(高田公園)、地域生活基盤施設((仮称)上越地域交流センター整備事業)、地域生活基盤施設(本城町広場整備事業)、地域生活基盤施設(高田公園情報板整備事業)、高質空間形成施設(高田公園隣接歩道照明整備事業)、既存建造物活用事業((仮称)上越地域交流センター整備事業)	高田公園関連事業:目標の確実な達成に向けて、高田市街地随一の観光拠点である高田公園の魅力向上が必要のため、追加 (仮称)上越地域交流センター整備事業:寺町地区において、新たな交流を生み出す拠点施設を整備するため、追加				(仮称)上越地域交流センター整備事業:新たな拠点施設の整備により、指標2の数値目標を上方修正した。 その他の追加事業については、まちづくりの目標達成に向けプラスの影響があるが、目標も指標も据え置く。				
		提案事業	地域創造支援事業(高田公園再整備事業、(仮称)上越地域交流センター整備事業)、まちづくり活動推進事業(観桜会魅力充実事業)	(仮称)上越地域交流センター整備事業:寺町地区において、新たな交流を生み出す拠点施設を整備するため、追加 観桜会魅力充実事業:「高田城百万人観桜会」の魅力向上により、高田市街地への集客増加を図るため、追加				(仮称)上越地域交流センター整備事業:新たな拠点施設の整備により、指標2の数値目標を上方修正した。 その他の追加事業については、まちづくりの目標達成に向けプラスの影響があるが、目標も指標も据え置く。				
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	観桜会への来場者数	人/年	884,300	H17	1,000,000	H22	1,087,000	1,108,000	あり なし	高田公園の整備などの魅力向上の取組により、H19年から4年連続で目標値を越えており、高田地区の活性化につながった。	平成23年5月
	指標2	当該計画で整備する施設への年間来場者数	人/年	2,498	H16	150,000	H22	37,997	151,864	あり なし	施設の整備により町家地区及び寺町地区への来場者が増加し、まちなか回遊観光の魅力ある"点"としての効果が発揮された。	平成23年5月
	指標3	観桜会期間の町家地区来訪者に占める観桜会会場との回遊率	%	48.5%	H17	70%	H22		85.1%	あり なし	町家整備やソフト事業の実施により、観桜会会場を訪れた後に、町家地区を訪れる観光客が増加し、回遊性が高まった。	
	指標4	観桜会期間の町家地区来訪者に占める本町商店街との回遊率	%	23.5%	H17	70%	H22		70.8%	あり なし	本町商店街のイベント開催や案内マップ作成など商店街との連携により、本町商店街と町家地区の回遊性が高まった。	
指標5	寺町駐車場の年間利用者数	台/年	0	H17	28,800	H22		23,175	あり なし	当該駐車場の利用台数が見込みを下回ったものの、駐車場整備により、寺町地区来訪者の利便性向上と増加につながった。	平成23年5月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
その他の数値指標1	歴史資源を活かしたまちづくり活動を行うNPO法人数	団体数	0	H17				3団体		NPO法人の新たに3団体設立されたことにより、同地区における市民主体のまちづくり機運が着実に高まっている。	平成23年5月	
その他の数値指標2	歴史資源を活かした市民主催イベントの年間開催回数	開催回数	7回	H17				18回		市民団体が主催するイベントが年々増加しており、同地区における市民によるまちづくり活動が活性化している。	平成23年5月	
4) 定性的な効果発現状況	<p>本計画による事業実施や平成20年11月の高田地区中心市街地活性化基本計画の内閣総理大臣認定などを契機として、平成21年2月に市民主導で高田地区で活動するまちづくり(18団体)の連絡会「高田まちネット」が設立され、各団体の事業連携に向けた定例の情報交換会が開催されるなど、市民主体の新たな活動が開始されている。</p> <p>本計画により整備した上越市福祉交流プラザは、障害者や高齢者の相談支援や子どもの検診などの福祉サービスを総合的に展開しながら、地元町内の運動会や敬老会の開催をはじめ、各種団体の会議やサークル活動、周辺の寺町地区来訪者の休憩立ち寄りなど、幅広い層、方面から利用されており、市民の利便性を高めるとともに新たな交流を生む場となっている。</p>											
5) 実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等	
	モニタリング	観桜会への来場者数、公開町家の年間来場者数のデータ収集によるモニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					引き続き、データ収集を実施し、高田の魅力向上とまちなか回遊観光の進捗を確認する。	
	住民参加プロセス	当該計画で実施したソフト事業での市民ガイドによる散策ツアーの開催や市民編集委員による散策マップの作成				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					今後も市民ガイドの養成や散策マップの更新を通じて、地区住民による手づくりのおもてなしを推進する。	
持続的なまちづくり体制の構築	当該計画で整備した施設(町家交流館高田小町)周辺での新たなNPO法人の設立				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					引き続き、NPO団体の活動やフォーラム開催にあたり、広報掲載などにより事業をバックアップしていく。		

様式2-2 地区の概要

高田雁木通り地区(新潟県上越市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標：城下町高田の歴史資源を活かした“まちなか回遊観光”を契機とした地域活性化 目標1：まちなか回遊観光のための“魅力”と“利便性”の向上 目標2：まちなか回遊観光を契機とした市民によるまちづくり活動の活性化 目標3：地域住民の暮らしと調和したまちなか回遊観光の実現	観桜会への来場者数	単位：人/年 884,300 H17	1,000,000 H22	1,108,000 H22
	当該計画で整備する施設への年間来場者数	単位：人/年 2,498 H16	150,000 H22	151,864 H22
	観桜会期間の町家地区来訪者に占める観桜会会場との回遊率	単位：% 48.5% H17	70% H22	85.1% H22
	観桜会期間の町家地区来訪者に占める本町商店街との回遊率	単位：% 23.5% H17	70% H22	70.8% H22
	寺町駐車場の年間利用者数	単位：台/年 0.0 H17	28,800 H22	23,175 H22



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 城下町高田の歴史資源の観光面での活用により、観光客等の商業地区への誘導が促進された。 新たなNPO法人の設立やイベント開催などの市民主体の取組により、“まちなか回遊観光”は着実に範囲を広げている。 商業地区における一層の経済効果の創出や、“まちなか回遊観光”の高田市街地一帯への拡大の課題などが残されており、交流人口の増加に伴う地域住民のおもてなしの対応、観光客のマナー向上など新たな課題も生じている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>2014年の高田開府400年及び北陸新幹線開業を見据え、引き続き、地域住民・まちづくり団体との連携により、城下町のまちなみや雪国の特性である雁木通りなど、歴史を感じさせるまちなみの保存と整備を行いながら、中心市街地の活性化を図り、人々の集う、にぎわいのあるまちづくりを進めていく。</p> <p>今後も、市民のまちづくり活動を、様々な形で支援しながら、高田市街地に点在する歴史資源を結んだ回遊ルートの形成と環境整備を推進し、“まちなか回遊観光”地としての魅力アップに取り組む。</p> <p>「上越市(高田地区)中心市街地活性化基本計画」に基づき事業を着実に実施するとともに、“まちなか回遊観光”の範囲を拡大し、広大な高田市街地一帯への経済的効果の波及を目指す。</p>

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標					
B. 目標を定量化する指標					
C. 目標値			[指標2]当該計画で整備する施設への年間来場者数:30,000人/年	[指標2]当該計画で整備する施設への年間来場者数:150,000人/年	既存建造物活用事業にて、寺町地区に新たな拠点施設を整備するため、事業の成果指標として来場者数を上方修正したもの
D. その他(計画区域の拡大)			計画区域:284ha	計画区域:637ha	当初の事業区域である市街地に加えて、観光拠点としての高田公園等を含めることにより、旧高田城下町全体を一つの事業区域とした”まちなか回遊観光”を実現するため

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道市之橋東本町線	37	W = 6m、L = 412m	37	W = 6m、L = 512m	事業精査による事業費、延長の確定	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし		
道路	市道西城町三丁目裏寺線(浄興寺大門通り)	106	W = 5.3 ~ 6.4m L = 252m	-	-	地元との協議が不十分であるため、削除	事業の削除は、来訪者回遊率や寺町駐車場利用者数の指標に関係するが、イベント開催や散策マップ作成などのソフト事業で補完できるため、目標及び指標は据え置く。	-	-
公園	高田公園	-	-	63	A = 48.1ha (園路、広場整備)	目標達成に向けて、高田市街地随一の観光拠点である高田公園の魅力向上が必要のため、追加	計画区域の拡大により、事業を追加することで目標達成にプラスの影響があるが、目標及び指標は据え置く。		
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	寺町駐車場整備事業	70	A = 11,650㎡	-	-	市事業で実施することになり、関連事業へ移行	関連事業へ移行したが、駐車場は予定通り整備するため、目標及び指標は据え置く。	-	-
地域生活基盤施設	(仮称)上越地域交流センター整備事業	-	-	49	A = 6,274㎡	旧高田盲学校を改修し、寺町地区において、新たな交流を生み出す拠点施設を整備するため、追加	新たな拠点施設の整備により、指標2の数値目標を上方修正した。		
地域生活基盤施設	本城町広場整備事業	-	-	5	A = 1,270㎡	高田公園隣接地にポケットパークを整備し、観光客の回遊性を高めるため、追加	観桜会への来場者数の指標にプラスの影響があるが、目標及び指標は据え置く。		
地域生活基盤施設	高田公園情報板整備事業	-	-	20	N = 48基	高田公園の魅力向上に向けて、公園の利便性を高めるため、追加	観桜会への来場者数の指標にプラスの影響があるが、目標及び指標は据え置く。		
高質空間形成施設	高田公園隣接歩道照明整備事業	-	-	17	N = 8基	高田公園の魅力向上に向けて、公園の安全・快適性を高めるため、追加	観桜会への来場者数の指標にプラスの影響があるが、目標及び指標は据え置く。		
高次都市施設									
既存建造物活用事業	まちなか交流拠点施設整備事業	599	町家3棟(旧小妻屋、旧今井染物屋、旧金津桶店)の改修	234	町家2棟(旧小妻屋、旧今井染物屋)の改修	各町家の機能分担を再検討し、整備内容を見直したことによる事業費の減	整備内容の見直しは、当該計画で整備する施設への年間来場者数の指標に関係するが、整備しない町家も継続活用するため、指標及び数値目標は据え置く。		
既存建造物活用事業	(仮称)上越地域交流センター整備事業	-	-	420	A = 6,274㎡	旧高田盲学校を改修し、寺町地区において、新たな交流を生み出す拠点施設を整備するため、追加	新たな拠点施設の整備により、指標2の数値目標を上方修正した。		
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	雁木整備事業補助金	28	市民による雁木整備 への経済的支援	20	市民による雁木整備 への経済的支援	事業費精査による事業費の減	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし		
	小姓人橋新設事業	40	L = 19.1m	30	L = 19.1m	事業費精査による事業費の減	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし		
	高田公園再整備事業	-	-	73	A = 3,200㎡ (厚生南会館解体)	目標達成に向けて、高田市街地随 一の観光拠点である高田公園の魅力 向上のため、追加	計画区域の拡大により、事業を追加することで目標達成にプラス の影響があるが、目標及び指標は据え置く。		
	(仮称)上越地域交流センター整備 事業	-	-	554	A = 6,274㎡	旧高田盲学校を改修し、寺町地区 において、新たな交流を生み出す 拠点施設を整備するため、追加	新たな拠点施設の整備により、指標2の数値目標を上方修正した。		
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業	まちなか散策促進事業	10	市民ガイドによる散 策ツアーの実施ほ か	6	市民ガイドによる散 策ツアーの実施など	事業費精査による事業費の減	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし		
	まちづくりセミナー事業	2	セミナー開催などの 啓発・研修活動	-	-	地元まちづくり団体の活動の活発 化により事業内容が団体と重複す るため、削除	市民団体自らが各種セミナー事業を行っており、削除による目標 への影響はなし	-	-
	まちづくりアドバイザー事業	1	専門家からの情報 収集や提供活動	-	-	地元まちづくり団体の活動の活発 化により事業内容が団体と重複す るため、削除	市民団体自らが、専門家やアドバイザーを招致しており、削除によ る目標への影響はなし	-	-
	観桜会魅力充実事業	-	-	11	吊ボンプリ増設など 観桜会のバージョン アップ経費	「高田城百万人観桜会」の魅力向 上により、高田市街地への集客増 加を図るため、追加	計画区域の拡大により、事業を追加することで目標達成にプラス の影響があるが、目標及び指標は据え置く。		

¹: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
道路整備交付金事業		市道駅裏大貫線	146	146	平成17年度～平成18年度	平成17年度～平成18年度	事業が完了し、寺町地区来 訪の利便性が向上した。	
			-	281	平成17年度～平成22年度	平成17年度～平成22年度	事業が完了し、寺町地区来 訪の利便性が向上した。	
暮らし・にぎわい再生事業		高田地区	-	4,000	-	平成20年度～平成24年度	平成24年10月の新しい複合 ビル完成を目指し再開発事 業が進捗している。	

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) ¹ 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度 ²		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし
指標1	観桜会への来場者数	人/年	733,400	H10	884,300	H17	1,000,000	H22	モニタリング	H20	1,047,000	モニタリング		
									事後評価	確定見込み	1,108,000	事後評価		
指標2	当該計画で整備する施設への年間来場者数	人/年	-		2,498	H16	150,000	H22	モニタリング	H20	37,997	モニタリング		
									事後評価	確定見込み	151,864	事後評価		
指標3	観桜会期間の町家地区来訪者に占める観桜会会場との回遊率	%	-		48.5%	H17	70%	H22	モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み	85.1%	事後評価		
指標4	観桜会期間の町家地区来訪者に占める本町商店街との回遊率	%	-		23.5%	H17	70%	H22	モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み	70.8%	事後評価		
指標5	寺町駐車場の年間利用者数	台/年	-		0	H17	28,800	H22	モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み	23,175	事後評価		

指標	目標達成度 × の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	上越市の最大の観光イベントとして、全国に向けた情報発信・PRや、会場となる高田公園の整備などの魅力向上の取組により、H19年度から4年連続で100万人の大会を突破しており、目標は達成したと判断した。	
指標2	当該計画で整備する施設への年間来場者数として、町家施設に3万人、福祉交流プラザに12万人の目標に対し、町家施設の来場者は31,567人、福祉交流プラザの来場者は120,297人と見込まれ、どちらも目標を上回っており、目標は達成したと判断した。	
指標3	町家整備やソフト事業の実施のほか、観桜会会場での町家案内看板やチラシ設置により、観桜会会場を訪れた後に町家地区を訪れる観光客が増加し、高田来訪者の回遊性が高まったことが、アンケート結果や町家来場者の声などから明らかであり、目標は達成したと判断した。	
指標4	観桜会期間に合わせた本町商店街のイベント開催や案内マップ作成など商店街との連携により、本町商店街と町家地区の来訪者の回遊性が高まったことが、アンケート結果や町家来場者の声などから明らかであり、目標は達成したと判断した。	
指標5	H18年度から観桜会会場のマイカー規制を実施し、郊外駐車場からシャトルバスを運行する方式への変更に伴い、その駐車場の一つとしての利用を見込んだが、会場に近い関川河川敷の臨時駐車場の利用傾向が強く、利用台数は見込みを下回った。今後も当該駐車場のPRや利便性の向上により着実な利用増を図る。	

¹ 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいいます。

² 目標達成度の記入方法

：評価値が目標値を上回った場合

：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考) 1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準 年度		基準 年度					
その他の数値指標1	歴史資源を活かしたまちづくり活動を行うNPO法人数	団体数	-	-	0	H17	モニタリング			NPO法人の新たな設立により、同地区の市民の主体的なまちづくり機運が向上していることから都市再生整備計画の目標2に掲げられている市民によるまちづくり活動の活性化を説明する。	指標1、3、4を補完し、観桜会期間以外での通年の同地区活性化に対する効果を示す。
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標2	歴史資源を活かした市民主催イベントの年間開催回数	回数	-	-	7	H17	モニタリング			市民主催のイベント開催回数の増加により、都市再生整備計画の目標2に掲げられている市民によるまちづくり活動の活性化を説明する。	指標1、3、4を補完し、観桜会期間以外での通年の同地区活性化に対する効果を示す。
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・本計画による事業実施や平成20年11月の高田地区中心市街地活性化基本計画の内閣総理大臣認定などを契機として、平成21年2月に市民主導で高田地区で活動するまちづくり団体(18団体)の連絡会「高田まちネット」が設立され、各団体の事業連携に向けた定例の情報交換会が開催されるなど、市民主体の新たな活動が開始されている。

・本計画により整備した上越市福祉交流プラザは、障害者や高齢者の相談支援や子どもの検診などの福祉サービスを総合的に展開しながら、地元町内の運動会や敬老会の開催をはじめ、各種団体の会議やサークル活動、周辺の寺町地区来訪者の休憩立ち寄りなど、幅広い層、方面から利用されており、市民の利便性を高めるとともに新たな交流を生む場となっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
観桜会への来場者数、公開町家の年間来場者数のデータ収集によるモニタリング	予定どおり実施した	[実施頻度] 毎年度1回 [実施時期] 毎年度4月末 [実施結果] 観桜会来場者はH19年度から4年連続で100万人を超えている。町家来場者も観桜会期間を中心に来場者数が安定しており、特に最近では市外からの来場者が増加しており、高田の魅力向上とまちなか回遊観光の実現に向け、一定の事業効果を確認できた。(H20年度 観桜会への来場者数 1,047,000人、公開町家の年間来場者数 37,997人)	引き続き、データ収集を実施し、高田の魅力向上とまちなか回遊観光の進捗を確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
当該計画で実施したソフト事業での市民ガイドによる散策ツアーの開催や市民編集委員による散策マップの作成	予定どおり実施した	[実施頻度] H19年度から毎年度 [実施時期] H19年度から毎年度 [実施結果] まちなか散策促進事業として実施している町家公開や散策ツアーでは、市民ガイドが高田のまちなみや歴史を解説しており、市民編集委員が作成した散策マップとともに、町家地区来訪者から親しみやすいと好評を得ていることがアンケートの回答等から確認できた。	今後も市民ガイドの養成や散策マップの更新を通じて、地区住民による手づくりのおもてなしに努める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名・組織の概要	
当該計画で整備した施設(町家交流館高田小町)周辺での新たなNPO法人の設立	予定どおり実施した	町家交流館高田小町の周辺の市民や当該団体との協働によるイベント開催や、各NPO団体の実施事業を後援等を通じ、支援している。	・NPO街なか映画館再生委員会 ・NPO頸城野郷土資料室 ・NPO街なみフォーカス(設立準備中)	引き続き、NPO団体の活動やフォーラム開催にあたり、広報掲載などにより事業をバックアップしていく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(事後評価検討チーム)	関係課の係長級職員(道路課、都市整備課、福祉課、用地管財課、観光振興課、中心市街地活性化推進室)	平成22年10月14日(木)	文化振興課(地区担当課)

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1		指標2		指標3		指標4	
指標名		観桜会への来場者数		当該計画で整備する施設への年間来場者数		観桜会期間の町家地区来訪者に占める観桜会会場との回遊率		観桜会期間の町家地区来訪者に占める本町商店街との回遊率	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道市之橋東本町線)	-	高田公園関連整備事業や観桜会魅力充実事業など「高田城百万人観桜会」の魅力を支えに高める事業の実施により、観桜会来場者数はH19年から100万人を超える状況となっている。	“まちなか回遊観光”の新しい魅力ある“点”づくりとして、既存建造物活用事業で実施した町家施設2棟及び福祉交流施設の整備により、町家地区及び寺町地区への来訪者が増加した。	高田公園関連整備事業による施設の魅力アップにより集客した公園来場者への街なか情報の提供やまちなか散策促進事業の実施などにより、観桜会会場を訪れた後に、町家地区を訪れる観光客が増加しており、“まちなか回遊観光”の実現に向けて、高田来訪者の回遊性が高まっている。	高田公園関連整備事業による施設の魅力アップにより集客した公園来場者への街なか情報の提供やまちなか散策促進事業の実施などのほか、案内マップ作成など商店街との連携による相乗効果が表れ、高田来訪者の本町商店街と町家地区の回遊性が高まっている。	-	-	-
	公園(高田公園)	-							
	地域生活基盤施設((仮称)上越地域交流センター整備事業)	-							
	地域生活基盤施設(本城町広場整備事業)	-							
	地域生活基盤施設(高田公園情報板整備事業)	-							
	高質空間形成施設(高田公園隣接歩道照明整備事業)	-							
既存建造物活用事業(まちなか交流拠点施設整備事業(2棟))	-								
既存建造物活用事業((仮称)上越地域交流センター整備事業)	-								
提案事業	地域創造支援事業(雁木整備事業補助金)	-	観桜会魅力充実事業による吊ボり増設やテント設置は来場者から好評であり、効果が出ているため、引き続き市事業で実施する。	各施設におけるイベント開催や周辺のまちづくり活動を展開する市民団体との協働事業などにより、両地区への来訪者数の増大につなげる。	引き続き、まちなか散策促進事業により、観桜会会場完結型の来場者を街なかへ誘導するなど、さらなる“まちなか回遊観光”の実現を目指す。	今後もまちなか散策促進事業を継続し、商店街と連携したスタンプラリーやPRの実施などの相互作用によって、観光客の街歩きを促進する。	-	-	-
	地域創造支援事業(小姓人橋新設事業)	-							
	地域創造支援事業(高田公園再整備事業)	-							
	地域創造支援事業((仮称)上越地域交流センター整備事業)	-							
	まちづくり活動推進事業(まちなか散策促進事業)	-							
	まちづくり活動推進事業(観桜会魅力充実事業)	-							
関連事業	道整備交付金事業(市道駅裏大貫線)	-	観桜会魅力充実事業による吊ボり増設やテント設置は来場者から好評であり、効果が出ているため、引き続き市事業で実施する。	各施設におけるイベント開催や周辺のまちづくり活動を展開する市民団体との協働事業などにより、両地区への来訪者数の増大につなげる。	引き続き、まちなか散策促進事業により、観桜会会場完結型の来場者を街なかへ誘導するなど、さらなる“まちなか回遊観光”の実現を目指す。	今後もまちなか散策促進事業を継続し、商店街と連携したスタンプラリーやPRの実施などの相互作用によって、観光客の街歩きを促進する。	-	-	-
	寺町駐車場整備事業	-							
	暮らしにぎわい再生事業(高田地区)	-							

指標改善への貢献度

- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ・事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	観桜会魅力充実事業による吊ボり増設やテント設置は来場者から好評であり、効果が出ているため、引き続き市事業で実施する。	各施設におけるイベント開催や周辺のまちづくり活動を展開する市民団体との協働事業などにより、両地区への来訪者数の増大につなげる。	引き続き、まちなか散策促進事業により、観桜会会場完結型の来場者を街なかへ誘導するなど、さらなる“まちなか回遊観光”の実現を目指す。	今後もまちなか散策促進事業を継続し、商店街と連携したスタンプラリーやPRの実施などの相互作用によって、観光客の街歩きを促進する。
-------	--	---	---	--

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		その他の数値指標1		その他の数値指標2					
指標名		歴史資源を活かしたまちづくり活動を行うNPO法人数		歴史資源を活かした市民主催イベントの年間開催回数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道市之橋東本町線)	-	まちなか交流拠点施設整備事業やまちなか散策促進事業の実施により、とくに町家交流館高田小町周辺の町家地区のまちづくり活動の機運が向上し、NPO法人の設立につながっている。	-	まちなか交流拠点施設整備事業などの計画事業の実施をきっかけに、町家交流館高田小町周辺の町家地区をはじめ、市民団体のまちづくり活動が活発化し、イベント開催回数が増加した。	-		-	
	公園(高田公園)	-							
	地域生活基盤施設((仮称)上越地域交流センター整備事業)	-							
	地域生活基盤施設(本城町広場整備事業)	-							
	地域生活基盤施設(高田公園情報板整備事業)	-							
	高質空間形成施設(高田公園隣接歩道照明整備事業)	-							
	既存建造物活用事業(まちなか交流拠点施設整備事業(2棟))	-							
既存建造物活用事業((仮称)上越地域交流センター整備事業)	-								
提案事業	地域創造支援事業(雁木整備事業補助金)	-		-		-		-	
	地域創造支援事業(小姓人橋新設事業)	-							
	地域創造支援事業(高田公園再整備事業)	-							
	地域創造支援事業((仮称)上越地域交流センター整備事業)	-							
	まちづくり活動推進事業(まちなか散策促進事業)	-							
	まちづくり活動推進事業(観桜会魅力充実事業)	-							
関連事業	道整備交付金事業(市道駅裏大貫線)	-		-		-		-	
	寺町駐車場整備事業	-							
	暮らしにぎわい再生事業(高田地区)	-							

指標改善への貢献度

- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ・事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	整備施設の利用を促進するとともに、NPO団体の活動やフォーラム開催にあたり、広報掲載などにより事業をバックアップする。	盛んになった市民団体が行うイベント開催などの活動を維持するため、行政は側面的支援を行う。		
-------	---	--	--	--

添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標5											
指標名		寺町駐車場の年間利用者数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道市之橋東本町線)	-	当該駐車場の利用台数は、観桜会の臨時駐車場としての利用をはじめ当初の見込み台数を下回ったが、寺町地区来訪者の利便性が高まったことは評価できる。										
	公園(高田公園)	-											
	地域生活基盤施設((仮称)上越地域交流センター整備事業)	-											
	地域生活基盤施設(本城町広場整備事業)	-											
	地域生活基盤施設(高田公園情報版整備事業)	-											
	高質空間形成施設(高田公園隣接歩道照明整備事業)	-											
	既存建造物活用事業(まちなか交流拠点施設整備事業(2棟))	-											
既存建造物活用事業((仮称)上越地域交流センター整備事業)	-												
提案事業	地域創造支援事業(雁木整備事業補助金)	-											
	地域創造支援事業(小姓人橋新設事業)	-											
	地域創造支援事業(高田公園再整備事業)	-											
	地域創造支援事業((仮称)上越地域交流センター整備事業)	-											
	まちづくり活動推進事業(まちなか散策促進事業)	-											
	まちづくり活動推進事業(観桜会魅力充実事業)	-											
関連事業	道整備交付金事業(市道駅裏大貫線)	-											
	寺町駐車場整備事業	-											
	暮らしにぎわい再生事業(高田地区)	-											

目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

要因の分類

- 分類: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

<p>改善の方針 (記入は必須)</p>	<p>高田地区で行われる各種イベントの開催時において、当該駐車場と会場を結ぶ案内図の作成やシャトルバスの増便などにより、駐車場の利便性を高め、利用者の増加を図る。</p>
--------------------------	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(事後評価検討チーム)	関係課の係長級職員(道路課、都市整備課、福祉課、用地管財課、観光振興課、中心市街地活性化推進室)	平成22年10月14日(木)	文化振興課(地区担当課)

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
観光化を契機とした経済効果の創出	雁木通りや町家など、城下町高田の歴史資源の観光面での活用により、観光客等の商業地区への誘導が促進された。	・商業地区における一層の経済効果の創出	交流人口の増加に伴う地域住民のおもてなしの対応、観光客のマナー向上、両者(地域住民と観光客)のルールづくり
高田らしい“まちなか回遊観光”の実現	新たなNPO法人の設立やイベント開催などの市民主体の取組により、“まちなか回遊観光”は着実に範囲を広げている。	・“まちなか回遊観光”の高田市街地一帯への拡大 ・地域住民の暮らしと調和した観光化	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- B欄に記入します。

添付様式5 - 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	市民によるまちづくり活動のサポート	引き続き、市民の創意・工夫と熱意に基づくまちづくり活動を、様々な形で支援していく。	・市民との協働イベントの実施 ・地域活動支援事業
	“まちなか回遊観光”のためのインフラの整備	高田市街地に点在する歴史資源をネットワーク化した、回遊ルートの形成と環境整備を推進し、“まちなか回遊観光”地としての魅力アップに取り組む。	・市所有の歴史的建造物の整備 ・歴史資源案内看板の設置 ・雁木整備事業補助金制度

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	商業地区における一層の経済効果の創出	平成20年11月に内閣総理大臣の認定を受けた「上越市(高田地区)中心市街地活性化基本計画」に基づく事業を着実に実施する。	・旧高田共同ビル再生事業 ・その他中心市街地活性化事業
	高田らしい“まちなか回遊観光”の高田市街地一帯への拡大	高田ならではの食や文化、特産品など新たな試みの付加や、リピーターの確保により、“まちなか回遊観光”の範囲を拡大し、広大な高田市街地一帯への経済的効果の波及を目指す。	・市民との協働イベントの実施 ・高田開府400年記念事業
	地域住民の暮らしと調和した観光化	地区の観光化が地域住民の負担にならないよう、市民との連携を十分に図りながら事業を推進する。	・市民との協働イベントの実施 ・観光客向けマナーブックの作成

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

様式5 - の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5 -)を再確認した。

添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

本計画により実施した施設整備やソフト事業をきっかけに生まれた交流が、住民主体のまちづくりの機運を高め、新たな活動の展開と地域づくりに発展しており、高田市街地を最初の舞台とした“歴史資源”を活用した地域活性化の取組は一つの成功事例として、他地域、市全体にも応用していくことができると考えられる。

添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-1、2-2に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-1、2-2から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	観桜会への来場者数	人/年	884,300	H17	1,000,000	H22	確定	1,108,000		あり	平成23年5月	4月の観桜会期間中の複数の特定ポイントにおける歩行来場者数の定時カウンタ計測や、臨時駐車場の利用台数をもとに、観光振興課が来場者数を推計した数を確定値とする。	平成23年4月末までには整備事業完了後の平成23年の観桜会来場者数が確定することから、それにより確定値とする。
指標2	当該計画で整備する施設への年間来場者数	人/年	2,498	H16	150,000	H22	確定	151,864		あり	平成23年5月	平成22年度の「入館者数集計表」により年間来場者数を把握する。	平成23年4月末までには、平成22年3月末(評価基準日)における年間来場者数が確定することから、それにより確定値とする。
指標3	観桜会期間の町家地区来訪者に占める観桜会会場との回遊率	%	48.5%	H17	70%	H22	確定	85.1%		あり			
指標4	観桜会期間の町家地区来訪者に占める本町商店街との回遊率	%	23.5%	H17	70%	H22	確定	70.8%		あり			
指標5	寺町駐車場の年間利用者数	台/年	0	H17	28,800	H22	確定	23,175		あり	平成23年5月	平成22年度の駐車場管理委託先の日常管理における利用状況の報告とイベント時の利用実績から年間利用者数を算出する。	平成23年4月末までには、平成22年3月末(評価基準日)における年間利用者数が確定することから、それにより確定値とする。
その他の数値指標1	歴史資源を活かしたまちづくり活動を行うNPO法人数	団体数	0	H17			確定	3			平成23年5月	新聞報道及び各団体への照会により、歴史資源を活かしたまちづくり活動を行う新規NPO法人の設立数を集計する。	平成23年4月末までには、平成22年3月末(評価基準日)におけるNPO法人数が確定することから、それにより確定値とする。
その他の数値指標2	歴史資源を活かした市民主催イベントの年間開催回数	回数	7	H17			確定	18			平成23年5月	新聞報道及び各団体への照会により、広く市民や観光客に事前周知されるフォーラムや参加型のイベント開催回数を集計する。	平成23年4月末までには、平成22年3月末(評価基準日)における年間開催回数が確定することから、それにより確定値とする。
その他の数値指標3							確定						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	一部指標でモニタリングを実施したことにより、交付期間途中で事業の効果を確認することができた。	毎年データが算出できる指標を設定するとモニタリングが容易になるため、途中の計測可否も考慮の上、指標を設定したほうがよい。
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		定量的な指標は「従前値」が存在するものを設定するとともに、事前に目標・事業との関係を整理しておく必要がある。
	うまく いかなかった点	「寺町駐車場の年間利用者数」は、駐車場の整備に伴い当然に実績が生じるものであり、目標値の妥当性も含め、目標・事業との関係を明確にできなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	町家整備やまちなか散策促進事業の実施を契機として、高田市街地における歴史資源を活かしたまちづくりの機運は少しずつ高まりを見せてきており、とりわけ町家地区においては、市民が自ら所有する町家の内部を期間限定で公開し、甘味処や作品展示などの催しを行う「越後高田町家三昧」が市民主体のイベントとして発展、定着してきた。	事業効果、継続性の面から、特にソフト事業の実施にあたっては、地域住民に地域の魅力を知ってもらい、住民を上手に巻き込んだ形で展開することが望ましい。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		計画への事業登載は、事前に庁内関係課との調整や地元住民との協議を十分に実施し、確実に実施できる事業を登載することが望ましい。
	うまく いかなかった点	当初計画に登載した事業で、具体的な事業内容や地元住民との協議など、事業熟度が足りないため、実施できなかった事業(道路1路線、町家整備1棟)があった。	

添付様式6 - 参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の交付金の活用予定

当地区において、当初計画に位置づけたが実施できなかった事業の実施とともに、さらに歴史資源を活用した地域の魅力を高める事業等が必要である。今回の経験を活かして、現在進められている高田地区中心市街地活性化事業の動きと歩調を合わせて、次期計画の策定を検討していきたい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成22年11月8日～11月22日	平成22年11月8日～11月22日	担当課への 郵送、FAX、電子メール	文化振興課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページ及び担当課窓口で原案を公表している旨を掲載	平成22年11月1日発行 広報じょうえつ	平成22年11月8日～11月22日		
説明会・ワークショップ					
その他	窓口閲覧	平成22年11月8日～11月22日	平成22年11月8日～11月22日		

住民の意見	<p>1人(NPO代表者)の方から意見が寄せられた。主な意見は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交付金で整備された「町家交流館高田小町」は、各種サークル、まちづくり団体の会議などでよく利用されていると思う。施設が出来たことで、周辺の町内会、住民の皆さんが自主的な催しを企画、運営するようになり、周辺地区が元気になった。 ・指標3、4について、回遊率の向上は評価できる点だと思う。寺町駐車場、福祉交流プラザ駐車場のPR、青年会議所の辻標の活用などにより、更に来訪者に街を回ってもらおう仕組みを検討してほしい。 ・今後のまちづくりの方策にある点在する歴史資源を結ぶ取組は続けてほしい。例えば旧師団長官舎も保存するだけでなく地元町内と連携してもっと活用してはどうか。 ・地区の観光化には住民のおもてなしの気運盛り上げが不可欠。まちづくりは急には出来ないので、市民主体で継続していくことが大事だと思う。
-------	---

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	青木 ユキ子 エコグリーン代表 斎京 稔 上越信用金庫会長(欠席) 中出 文平 長岡技術科学大学教授 羽尾 美子 国際ソロブチミスト会員(欠席) 保坂 桂子 (株)アルゴス社員	平成22年11月25日(木)	文化振興課	上越市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	既存組織をあらためて委員に委嘱
その他の委員	宮下 好文 新潟県上越地域振興局長				

審議事項 1	委員会の意見
方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
成果の評価	・評価結果については了承された。 ・「観桜会来場者数」や「計画で整備した施設の入場者数」の指標は適当でなかったのではないかと意見があったが、当初に設定済みの指標であり達成と判断したことについては委員の理解を得た。
実施過程の評価	・実施過程については、適正であると確認された。
事後評価手続き等にかかる審議	・福祉交流プラザ整備事業の効果としては施設入場者数だけでなく、大目標につながる効果について記述を工夫すべきとの意見があった。 ・観桜会魅力充実事業などが本当に観桜会の来場者数に貢献したのか実感できないとの意見があったが、少なからず貢献していると判断しており、より適当な指標を今後検討していくことで委員の理解を得た。
事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案が市民に対して適正に公表されたことが確認された。
その他	・地区来訪者の回遊率の指標は、別の適当な測定方法を検討してほしいとの意見があった。 ・本計画と、NPO法人や高田まちネットの設立の因果関係がはっきり言い切れない中で、定性的な効果発現状況としては、例えば福祉交流プラザの整備が市民にどう役立ったかを定性的に説明したほうがよいとの意見があった。
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。 ・高田公園をはじめ各事業の効果も、期間限定の観桜会来場者数の増加だけでなく、通年の街なか回遊を高めることにつながることを明確にしたほうがよいとの意見や、事後評価をもう少し厳しい目で行うよう助言があった。
今後のまちづくり方策の作成	・「雁木整備補助制度は一体的に支援しないと観光面で効果が上がってこないのではないかなと思う。」「NPO法人が取り組んでいる映画館などを市の観光パンフで紹介するなど情報発信し、観光資源として活かしてほしい。」などの意見があった。
今後のまちづくりについて審議	・フォローアップ計画に基づき実施することを確認した。
その他	・同地区における各事業の実施にあたっては市役所内の連携を十分に図って進めてほしいとの意見があった。
今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・福祉交流プラザが基幹事業と提案事業に区分されていることについて、それぞれの整備内容についての確認があった。

1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。